

## 「学生 FD サミット」参加報告特集号

### 神戸学院大学に「学生 FD」を期待する

教育開発センター 所長  
岡本 博

2012年夏(2012年8月25日、26日)、立命館大学衣笠キャンパスに全国48大学の学生が集まり、個人参加の学生、教職員を含めると、実に58大学、4団体から総勢427名が参加して「学生FDサミット」が開催されました。本学からも、初めて10名を超える学生たちが自主的に参加しました。この学生集会は、“学生の立場から、大学を変える”との観点で立命館大学の学生FDスタッフが全国に呼びかけ、2009年夏の開催を最初に年2回のペースで各地の大学で継続して開催されています。

このニュースレター特集号では、2回にわたって2012年夏「学生FDサミット」に参加した本学学生たちの、ストレートな思いをとりあげました。「FD」という言葉を初めて聞いた本学の学生が、他大学の学生との交流を期待して参加し、大学での教育改善に学生が積極的に関わるという他大学の状況を見聞きし、大きな驚きを味わった様子がよく分かります。

本学の学生たちが臆せず他大学の学生との交流の中に飛び込んだ勇氣に対して、まず賞賛したいと思います。そのような好奇心と積極性こそが、今の本学学生に必要なことだからです。そしてさらに、他大学の学生から「FD」という言葉の意味を教わり、自分たちの大学でも取り組んでみたいと思うようになったことに大きな希望を感じます。

私たち教職員が学生にとりたてて参加を勧めたわけではなく(学内情報サービスの「連絡・お知らせ」でこの企画について全学生にメール配信)、学生の中から主体的に生まれてきた「FD」への理解と、本学を良くしたいという母校愛に根ざしているからです。そこで、昨年12月3日に開催した「学生とFD部会委員との懇談会」には、サミットに参加した学生たちを招き、参加した感想と意見を聞かせてもらいました。次回の「学生FDサミット」は、3月5日、6日の2日間、岡山大学で2013年春岡山サミットとして開催予定ですが、これにも本学学生数名が参加を希望しています。このような教育改善への学生参加という意識の高まりが、学生たちの中で一步一步育ち、神戸学院大学の教育の質を高める活動の中で、将来大きな力となることを期待したいと思います。このニュースレター特集号を手にとられた教職員の方々には是非とも、本学の学生の中に芽生えてきた「学生FD」という意識を感じ取っていただきたいと存じます。



学生 Student-Initiated Faculty Development SUMMIT

FDサミット 2012夏

大学を変える、学生が変える

2012 8/25 sat. 26 sun. 「Link and Action ~つなげる可能性の輪~」

立命館大学 衣笠キャンパス 敬学館・明学館

## 学生 FD サミット 2012 夏 報告書

経営学部 経営学科 3 年次生 俵 聡宏

### 【動機】

#### ・参加の決め手

今回私がこの FD サミットを知ったのは本学の「学内情報サービス」でした。普段はあまりこのサービスを使用しませんが、この時期は試験期間中だったのでテストの内容を確認するため学内情報サービスを確認し、今回の FD サミットのタイトルが目にとまり、興味本位で内容を見ました。その時はあまり気にしませんでした。その後の学内の一斉送信メールで思い出し、詳しく内容を見てみようと思いました。

FD サミットの内容はどうあれ、まず印象に残ったのは「他の大学の学生と議論し交流できる。」ということでした。

この頃私は多くの様々な場へ参加し、交流を深めることに魅力を感じていました。今まで知らない人と友好的に話し、その相手の考え方や良いところを吸収し、自分に落とし込むことで成長の幅を広めることができることを覚えたからです。

そんな私にとってこの FD サミットはとても魅力的でした。そして、この FD サミットの詳細について問い合わせたところ旅費は大学が負担してくれるということにも魅力を感じて参加を決意しました。

#### ・グループ参加の魅力

前述したとおり、私は多少なりともこういった未知の場に足を踏み入れることは成長に繋がる経験になると感じています。それは知見を広げることができるからです。参加者が多ければ多いほど、たくさんの意見が出てたくさんの考え方を知り、**より視野を広げることができます。**

そこで、私はグループ参加を希望し、メンバーを集めました。ちなみに、その際に旅費を大学が負担してくれるという事実はメンバーを集めるのにとってもやりやすかったです。また、当時私は大学祭中央実行委員会の会長を務めており、委員会内のメンバーにも、こういった場には積極的に参加すれば成長できる、ということに気づいてほしくて何人かをこの FD サミットに誘いました。

#### ・学生 FD という活動

参加を決意し、メンバーを集めたところまでは良かったのですが、正直なところ私は学生 FD が何なのかを理解していませんでした。いろいろ調べ、何か大学を良くする活動なのだなと自己解決しましたが、「学校の何をよくするのか？ 授業？ その他？」「具体的にどのような活動をするのか？」などの新たな疑問が生まれました。

そこで、今回の FD サミットの参加に際しては、『**学生 FD とは何なのか？ その目的や活動、必要性や現状の課題**』を見極めることを目標にして、最終的に**どう本学に落とし込むか**、まで考えることができれば良いな、という想いで参加しました。

### 【活動報告】

#### ・参加前に

今回の参加のための条件は整いましたが、ただ参加するだけでは意味がありません。この FD サミットに参加して、どのように自分に活かせるかが重要になります。

そのためにメンバーの提案で 8 月 23 日に事前説明会兼顔合わせを行いました。ここでは、メンバーの顔合わせと当日の行動の流れ、今回の FD サミットはどんなものか、学生 FD とは何か、といったものを説明し、みんなで意見交換を行いました。

これは、今回参加する FD サミットがどのようなカテゴリ、テーマのものかを再確認して全員で共有し、個人それぞれに参加の意味を考えてもらい（目標を持ってもらう）、意味のある参加にすることが目的です。

この結果、学生 FD について自らの考えを持つという意識付けはできましたが、やはり FD が何なのか具体的なものがわからず、抽象的なイメージしか持てず、具体的には当日参加して学ぼう、という曖昧な結果に終わってしまいました。

## 学生 FD サミット当日について

### 【活動内容】

#### 1 日目

1 日目は参加者が情報を得ることが狙いらしいです。

#### 10:30～11:30 オープニング

主催者の挨拶や各大学団体紹介が行われました。

ここでは、各大学の参加団体代表者が自分の大学の取り組みや意気込みを 30 秒程度で紹介しました。また、主催者側による学生 FD を大まかに説明したミニトークも行われました。

#### 11:40～13:15 活動紹介ブース

大学ごとにブース（小教室）を持ち、自分たちは好きなブースへ出向き、その大学の取り組みの説明を聞き、質疑応答を行いました。各 15 分で全 3 回、説明は講義のような形でした。途中（12:15～12:55）、2 日目のしゃべり場の班に分かれ昼食をとりました（アイスブレイク）。

#### 13:30～16:45 分科会 I、II

中規模の教室でそれぞれ別のテーマで分科会を行いました。2 回に分けられ各 90 分程度でした。1 回につき 3 つのテーマ（3 教室）、合計 6 つのテーマが用意されていて、1 人最高 2 つのテーマの分科会に参加することができました。形式は様々でしたが、基本的にパネラー 3 人が意見を言い、それぞれがディスカッション、その流れを見て最後に参加者からの質疑応答、という流れでした。

#### 2 日目

#### 9:30～9:50 しゃべり場オープニング

全体の前で主催者から、今回のしゃべり場（グループディスカッション）の趣旨について寸劇を交え説明を受けました。

#### 10:10～14:30 しゃべり場（昼食含む）

小教室に主催者側から指定されたグループごとに分かれ、テーマについてディスカッションしました。全体のテーマは「学生の主体的な学びとは」に設定し、それについてとそれを実現するにはどうすればいいか、を話し合いました。ここでは、ポストイットに各自が意見を書き込み、それを模造紙に貼りまとめるという方法で行いました。

各グループには学生・教員・職員が参加し、1 グループ 7 人程度でした。

#### 14:35～15:20 発表

1 つの教室に 4 つのグループが集まり、しゃべり場でどのような結果になったか、どのような意見がでたかを報告しあい、質疑応答が行われました。

#### 15:40～16:00 エンディング

最後に主催者の挨拶や今回の FD サミットの写真を動画で見る等しました。

### 【感じたこと】

#### • 全体で感じたこと

今回の FD サミットに、私は学生 FD の全てを学ぼうと参加しました。しかし、全体を通して受けた印象としては、学生 FD に完全な定義や体系があるわけではなく、それぞれの大学が迷走しながら大学を良くしようとしている、ということのようでした。

つまり、あらかじめ考えていた FD とは何か？ と言うものにまだ答えはなく、自らが大学改善のために考えたことがすでに学生 FD なのだ、という印象を受けました。

これより、まずは学生 FD について知ってもらい、それについて真剣に考えることができる環境が必要だなと感じました。そのためには「学生 FD 委員会」のような機関を設立し、学生 FD について専門的に活動できる体制が必要です。そこで初めて答えのわからない学生 FD・大学改善について考えることができ、それを現実に落とし込むことができると感じました。

#### • 活動紹介ブースでは

活動紹介ブースではそれぞれの大学が全く違うテーマについて発表していて、考え方も違うなと感じました。

ある大学は「Aの目的のためにBということをした。」という報告に対し、他の大学は「Aには全然関係のないCの目的のためにDをした。」という報告でした。しかし、これは学生 FD が全体で統一されていない現状と、大学ごとに今ある課題が違うというように状況が違うので当然のことです。

日本全体でこういう風に FD をしなさいという方向性がないので、大学ごとにいろいろな方向性を持っているという現状です。これについては問題ないと思ったのですが、逆に他の大学がやっていることをそのまま、自分の大学でやったからと言って、必ずしも成果が出るとは限らないと

感じました。何を取り入れるか、何が必要か、等その見極めが必要であると感じました。

・分科会では

私は「学生 FD ってなに～多様化する学生 FD～」と「学生 FD 組織としての成長とは」というテーマの分科会に参加しました。

「学生 FD ってなに～多様化する学生 FD～」では、現状の学生 FD は多様化しているがそれはどんなことか、ということについて話を聞きました。結論としては、学生 FD とは学生だから出来ることであり、その範囲を広く持ち、いろんなことに挑戦すべきだ、というものでした。しかし、広範囲になれば目的がぶれるので、全体とその範囲ごとの目的・ビジョンは明確に持つべきだと感じました。

「学生 FD 組織としての成長とは」では、引き継ぎの問題について、と組織の成長とはということに関して話を聞きました。引き継ぎに関してはパネラーの主観的な意見であり、これについては組織論について勉強すれば問題ないと思いますが、後者は組織の目的を明確に作りそれを達成することが成長だと主張していました。

この分科会を通して感じたことは、このような組織や活動内容に関して問題が多く挙がっているのならそれらを類型化して共有すべきではないか、と言うことです。つまり FD 連盟のようなものを作り、そこに各大学の FD 委員会が参加すればよいのではないかと思います。

・しゃべり場では

しゃべり場では他大学の学生・教員の方と「学生の主体的な学びとは」について議論しました。これについては私も含めグループのみんなが多く意見を出し合い、多くのことに気付きました。このように、「ディスカッションをして真剣に話し合えば、多くのことに気付ける。」と言うことを体験しました。今回のディスカッションでは以下のような内容になりました。

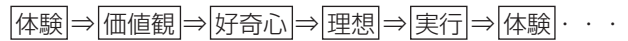
- ・主体的とは…自らが進んで、自発的に行動する。
- ・学びとは……授業だけではなく、日頃の行動全てから得ることができる気付き

つまり、学生の主体的な学びとは、「学生が授業だけではなく、日常の全ての物から自ら何かを得ようとする」と定義付けました。

次に、ではどうすればそれを現実に落とし込めるか、を話し合いました。

この定義と現実との今のギャップは、学生自身が学びとはどういうものを理解していないこと、つまり学ぼうと思って学んでいないことです。

では、どうすれば学ぶことを理解させることができるのか。それを話し合い、以下のような1つのフレーム理論を考えました。



これは日常の旅行や授業など様々な体験を通して、その体験での感動などの価値観を感じ、そこで得た価値観から興味・好奇心が生まれ、それが原動力となって自分はこうなりたい、これを知りたい等の理想やビジョンが生まれる。そのビジョン（目的）を達成するために方法を考え、それを実行する。その実行したこと自体が体験になり、また価値観が生まれる。というサイクルです。

このサイクルを理解させ、日常全てのものが学びに繋がれることを知らせること＝学ぼうとさせることになるのではないか、という結論ができました。

つまり、ただ単に物事をするのではなく、常に何かを吸収できると意識させることが、学生の主体的な学びに繋がり、このサイクルはその意識付けを行う際のツールとして使えるだろう、と言った内容をしゃべり場では話し合いました。

私は、あとはこれを実現するためにはどうすれば良いかを考えることが、これからの課題であると感じました。と同時に、大学で何か具体的な知識が身に付かずとも、このような意識が身に付くような大学はそれだけで大きな存在価値があると思います。それほどまでに現状の学生には主体的に学ぶ姿勢が欠落していると感じました。

【感想】

今回の FD サミットに参加して、学生 FD というものの重要性を初めて知りました。そして、その現状がどのようなものかも理解しました。また、自分なりの考えもあります。

このことから、時間と余裕があれば神戸学院大学内で主体的に行動し、より良い大学にしていき、他大学にも堂々と胸を張って、神戸学院大学から外を変えられるようになったらいいと思います。

FD サミットでは、思考法や物事へのアプローチ法、他大学の考え方や動きなど、直接 FD に関係ないことも学ぶことができ良かったと思います。また、参加した他のメンバーもそれぞれ何かに気付けたようですし、個人の目的だった交流を深めることの意味と大切さにも気付いてもらえたようで、今回の参加はとても意味のあるものだったなと思いました。何より、私もみんなも楽しんで学ぶことができとてもいい経験になりました。

## 【当初の目的について】

- ・『学生FDとは何なのか？ その目的や活動、必要性や現状の課題』を見極めること
- ・最終的にどう本学に落とし込むかについて、個人的にまとめます。

### ・学生FDとは何なのか？

目的：自分が学ぶ環境（大学）を改善して、より良い、より自分の望む学びを受けることができるようにする。

範囲：授業に限らず、大学内外で学べることを全て

主体：学生

※FDとは本来大学に義務化された大学改善の活動の総称ですが、そこには学生の視点・意見がなく、それを受ける学生の考えが反映されない（反映しにくい）ため、学生FDというものが生まれ、これを実行するうえでは、学生視点で大学を改善する活動を学生が行うことに意味がある。

対象：大学全体（学生・教員・職員区切らず）

活動：より良い学びを行うための内容

（例）発案型授業（学生の意欲増加）、授業研究、読書カフェ等様々・・・

方法：学生と教員と職員が連携し、どのように変えたいか明確なビジョンを持ち、それを達成する活動内容を企画し、それを実行する

必要性：より良い学びを自ら創造することは必要。また、それをすること自体がすでに主体的な学びであるから、学生FDは推進すべき、と考えます（個人的には）。

現状の課題：学生FDの認知

どのような大学、学生にすべきかというビジョン

教員・職員とのビジョンの共有

全体での連携・統一

### ・どう本学に落とし込むか

私が考える本学への学生FDの落とし込み方法は、

- ・まず、学生・教員・職員がよく話し合い、ビジョンを共有する。

我々学生だけが学生FDを希望しても、大学側がそれを望まずに実行すれば必ず後々問題が発生する。そうならないために、学生FDとは何か？なぜ行うか？何を行うか？

誰が行うか？どのようなビジョンを持っているか？など認識を共有し行うべきである。

- ・FD専門の機関を設立すべきである。

行うとは言え、行う人間がいなければ机上の空論である。具体的にFDを主体的に行う人間を決め、その人間はFDに専門的に取り組むべきである。これは学生がメインとなって取り組むべきだが、そこに教員・職員も参加し、意見交換し方向性を常に共有すべきである。

- ・全体でビジョンを明確に持つ。

FDは学生・教員・職員が三位一体になって取り組まなければ成功しない。その三位がそれぞれ違う方向を向いて活動してはこれも成功しない。三位が協力して同じ方向を向いてこそ初めてFDは成功する。

- ・全体に認知させる。

ひっそりとFDを行っても効果は薄いだろう。全ての学生・教員・職員が理解してこそ大きな効果が生まれるだろう。それには、少しずつ認知度を高めていき、最終的に神戸学院大学の大半の構成員が、FDというものがあり、それが何なのかを知っているという状態が好ましい。

## 【最後に】

私達が今回参加した学生FDサミットの経験や知識を活かすために、まずは大学側でFDについて考えていただいて、必要不必要の確認、その境界を明らかにしてほしいと思います。そこからどのように動いていくか、もしくは動かないかの判断を具体的にしていただけましたら、より本学の発展に繋がるのではないかと考えます。

今回の参加は、ただ参加したことの意味のあるものではなく、参加して初めて意味を見出すことができるようなものでした。私はこのような意味のあるものをそのまま放置するのはもったいないと思いますので、これを機に本学がより良い発展を遂げることができればうれしく思います。

このような要望のような終わり方で恐縮ですが、今回のFDサミットに参加させていただいてありがとうございました。



## 立命館大学 学生 FD サミットに参加して

人文学部 人文学科 3年次生 古池 幸賢

8月25・26日と立命館大学にて開催されたFDサミットに参加してきた。

参加して、思ったこと感じたことについて、報告とともに要望のような形でまとめた。

- 神戸学院大学には、FD委員会またはそれにあたるものがあるのか。あるならそれは機能しているのか。

FDサミットに参加して、様々な大学の学生と話す機会があり、様々な話を聞いて、なぜ自分の大学では、学生・教員・職員たちが、自分を含め、動いていない、機能してないのだろうかと感じた。

FD活動を実施している大学が増えている。

→実施することでメリットが見えているから。

→なぜ本学では実施していないのか。

- 学生、教員、職員の関係の再確認  
互いの関係性は、どこかが一方的でないか。  
学ぶのは学生ということの認識の必要性。
- 積極性のある学生の教育  
神戸学院大学の学生に対して、  
積極性を育てる授業の考案。  
積極性を育て、様々な面からの問題意識を持たせる重要性。  
学生自身の在り方も考えさせること。
- 今の大学生の成長していくことを考える  
神戸学院大学はどのような学生を社会に出していきたいのか。

## 学生 FD サミットに参加して

経営学部 経営学科 3年次生 大川 晃平

FDについて全く知識のない私が今回のFDサミットに参加して印象的だったのは、それぞれの大学が特徴的な取り組みをしていて、また学生がそれを自主的に考え、率先して行っているということでした。

例えば、FDサミットで聞いた「学生発案型授業」では、FDに所属する学生たちが教職員の方々と話し合いなどで授業の候補を作り、全学生のアンケートで一つに絞ってもらい、それをその年の共通科目の授業として扱うことにします。

ですが、それだけで終わりではありません。

この授業を発案したFDに所属する学生たちは、自分たちが作ったその授業を担当教授と一緒に半年間運営します。

この「学生発案型授業」を実施している大学の教職員の方々とお話をしましたが、これの狙いは「学生が教える側

としての苦勞を知ってもらうこと」らしいです。

他の大学では、このような授業を共通教育科目ではなく、専門科目の必修授業として扱っている大学もあるそうです。

このように他大学では、学生が自主的に参加することで、自らの大学の特徴的な取り組みに関われる場があります。

また、教職員の方々がそのような環境を学生に与えるために、頑張っているということが印象的でした。そのため、FDサミットに集まった教職員の方々は熱意を肌で感じられる人が多かったです。

私がFDサミットに参加して思ったことは、他大学の学生は自主性が強く、教職員の方々と距離が近い、ということです。

## 立命館 学生 FD サミット 報告書

法学部 法律学科 3年次生 三木 聡真

今回、立命館大学学生 FD サミット 2012 夏に参加してきました。

FD サミットの内容は、大まかに一日目はオープニングに始まり、各大学の紹介兼活動紹介そして分科会による活動と報告があり、二日目は「しゃべり場」そして「しゃべり場」の内容発表、エンディングと続きました。

活動紹介では、それぞれが興味のあるブースに参加できるので、私は関東圏 FD 学生連絡会の発表を聞かせていただきました。

同じ年代の学生でも私達とは考える事が大きく違い、大学を学生からより良くするために動いている方々なので、当然といえば当然であると思いましたが、やはりその意識の大きな差を今回一番感じました。

私たち自身「FD とは何だろうか？」という考えをもって、今回のサミットに参加し、何か得るものがあればと思っていましたが、そもそも神戸学院大学では、大学側の動きや学生の活動においても、学生が何も知らなさ過ぎるというのが問題であると感じました。

他大学でも FD という活動はまだまだ認知されておらず、これからどういう風に認知してもらおうかを考えることが課題であると思われませんが、そのために学生と教職員が協力して動いています。

しかし、本学では教職員の方々も動いているのかもしれませんが、その成果が全く目に見えた形で上がっていないと感じます。学内でもよく「こんな事をしているなんて知らなかった。」「知っていたら参加していた。」など知ってさえいれば参加する意欲があるといった学生を多く見かけます。

よって大学側は内容を充実させる事も重要であると思いますが、まずは認知される幅を増やすべきではないか？と感じました。

「しゃべり場」では、学生の主体的な学びとは？について各グループ 6～7人でディスカッションを行いました。ディスカッションは、ポストイットを使用し、思いついたことをどんどんポストイットに書き、それを模造紙に貼り付け、時間が経ってから内容の確認を行えるといった方法で行われました。

ポストイットの内容を聞かれれば発言するので、全員が発言する機会を与えられ、全ての発言は否定されるわけではなく、一つの意見として大事にされます。ディスカッションに慣れていない私でも苦もなく発言することができました。

学生 FD サミットの参加者たちは、やらされているのではなく自らがやるといった意志を強く感じました。

学生自らが主体性を持っており、神戸学院大学の学生に欠けているのはそこだと感じました。

これからの課題としては、学生にどう主体性を持たせるかであると感じました。



## 学生 FD サミット 2012 夏に参加して

総合リハビリテーション学部 社会リハビリテーション学科 3年次生 市田 響

私は8月25・26日の両日、立命館大学衣笠キャンパスで行われた学生FDサミットに参加をした。本学からの参加者は11名であった。

私はこれまでに本学の教員と学生のFD懇談会に何度か参加をしたことがあり、他大学のFDについて関心があった。

今回のFDサミットは立命館大学学生FDスタッフが自ら企画進行を行っていた。そもそも学生がこのような一大イベントを自ら運営していることにまず驚いた。

全国からFDに関する活動に取り組んでいる学生団体のメンバーが集まっており、北は北海道、南は鹿児島まで全国様々な学部学科の学生と交流を持つことが出来た。

分科会では各大学でFD活動を行っている学生団体の取り組みについて発表されていた。

本学にはFDに関する学生団体が存在していないため、私を含め本学からの参加者からは「学生自身が大学に働きかけるなど、こんな取り組みを行っているのか。」と驚きの声が出た。学生の目線で「私達が受けている講義をもっとこんな風にして欲しい、こんなカリキュラムにして欲しい。」など学生が自らのアイディア・企画を出して発表を行っていた。

この学生FDサミットでは、様々な大学との交流を通して、他大学から良い部分を学び、自大学を見直すことを目的としており、我々にとっては目から鱗が落ちる思いであった。

私はこのイベントに参加して、本学でもより多くの学生がFDについて関心を持ち、積極的に大学に対して改善点などを提言して行く必要があると感じた。他大学の学生の主体的な活動を見て、私は本学の学生の無関心を痛感した。本学にも今後何らかの形でFDに関する学生団体が組織されなければならないと思う。

まずは教員と学生がFDについて互いに話をする機会をもっと増やすべきではないか。

教員と学生が時間をかけた深い議論を交えて、意見がどちらかの一方的なものになるのではなく、学生と教員がお互いに歩み寄って、良い講義、良いカリキュラムを共に創っていく必要があるように私は思う。

### 編集後記

だいぶ古い話になりますが、2012年8月に立命館大学で開催された「学生FDサミット2012夏」に、参加した本学の学生から提出された報告書です。

ほぼ学生が書いたままの文章です。学生の生の声として、本学の教員のみなさまにお読みいただきたく全文を掲載しています。次号にも続きます。

